

就労定着支援事業終了が迫り、障害当事者と十分な関係性を構築できない状況で引継ぎを行ったケース

圏域 柏 センター名 ビック・ハート柏

氏名	Y・S	居住形態	家族同居 GH 単身 その他		
手帳種別及び等級	精神保健福祉手帳 3級	年齢	28歳	性別	女
成育歴および現在の生活状況	小、中、高校生の頃から成績は良かったが、複数の宿題が出ると何から手を付けて良いかわからず、そのまま学校へ行くことがあった。また、起床時間が遅く、高校3年生の頃は遅刻や欠席が続いていた。弟が学習障害の診断を受け、Y・Sも受診され広汎性発達障害の診断を受けた。障害に理解がある大学へ進学。就職活動を進めていたが、圧迫面接等で泣いてしまうことがあり、就職先が決まらず大学院を卒業する。卒業後は就労移行支援事業であるA事業所を利用。				
就業前の訓練事業所	A事業所	サービスの種類	就労移行支援事業所	期間	1年6か月
就職先	H社		入社日	H28.6.1	
業務内容	事務処理支援サービス				
就業先企業情報	業種：人材派遣会社 障害者雇用歴：13年				
就業前の課題	秋冬になると起き上がれない症状がでる。 月経前になると頭痛やだるさの症状が強く出る。				
就労定着支援個別支援計画	-				
課題解消に向けた支援体制					
障害者就業・生活支援センターと就労定着支援事業所間の連携経過	<p>令和2年2月 就労定着支援事業所からの紹介を受け、面談、ナカポツセンターへ登録を行う。</p> <p>令和2年6月 就労定着支援事業所同席のもと定着訪問を実施。</p> <p>令和2年9月 就労定着支援事業所同席のもと定着支援を実施。</p>				

<p>具体的支援経過</p>	<p>R.2.2 当センターの登録に向けての説明と、本人情報の聞き取りを行う。今後定着支援事業所と訪問を予定するため、調整を行った。</p> <p>R.2.6 定着支援事業所に同行し、定着訪問を実施した。体調、勤怠、業務内容、生活状況の確認と助言を行う。企業へ今後支援機関が変更になる旨を伝える。本人と関係性の構築を図るため、次回も定着支援事業所に同行し企業訪問を行う。</p> <p>R.2.9 定着支援事業所に同行し、定着訪問を実施した。体調、勤怠、業務内容、生活状況の確認と助言を行う。家族との関係性について、GHの利用を相談中とのこと。今後具体的に利用を検討する際は当センターへ共有、相談が可能なことをお伝えした。次回以降から当センターが定着訪問を行う旨を本人、企業へお伝えをする。</p>
<p>現在の状況及び支援効果</p>	<p>現在、コロナウイルス感染拡大防止の為、月7日間在宅勤務となっている。そのため、生活リズムを整えやすい状況であるとのこと。</p> <p>勤務時間を10：00～17：00 9：30～18：00まで延長している。遅刻欠勤等はなく、勤怠は安定されているとのこと。</p>
<p>障害者就業・生活支援センター側からの支援・連携上の課題</p>	<p>Y・Sとの関係性の構築。家族との連携支援。定着支援事業終了が迫る中での依頼となり、Y・S、ご家族とも十分な関係性を構築できないままでの引継ぎとなった。本ケースにおいては幸いにもY・S、御家族共に支援先が変わる事に理解を示され就業状況も安定していたが、そうでない方の場合における引継ぎのタイミングに課題を感じる。</p>
<p>就労定着支援事業所からの要望・意見</p>	<p>定期的な訪問や生活リズムの助言。引継ぎのタイミングが明確でないため、決まっていると有難い。</p>